

「インプラントカード2015」の改訂について

医療・社会保険委員会

当時の「インプラントカード作成のねらい」：

超高齢社会に突入し、要介護高齢者の増加に伴い、歯科訪問診療でのインプラント管理に必要性も高くなってきています。また、インプラントの種類が増加とあいまって、どのようなインプラントが患者に使われているのかを知ることは、インプラント治療の継続や管理に重要となってきています。

本学会では、これに対応するために、治療終了時に治療内容を記した「インプラントカード」を作成し、学会ホームページに掲載しています。（このたび発刊される「口腔インプラント治療とリスクマネジメント」という小冊子にも紹介しています。）

本学会のインプラントカードの特徴は、以下のとおりです。

- ・ 将来のデータベース化を視野に入れている
- ・ コンパクトサイズ（名刺二つ折り）
- ・ 歯科医院のQRコード入り（オプション）
- ・ パノラマ写真入り（オプション）
- ・ 歯式図入り（手書き）
- ・ PCで入力し、データを保管できる。追記できる（再発行）
- ・ 安価なインクジェットプリンタ使用可能
- ・ 入手容易な汎用カード用紙使用
- ・ 日本顎顔面インプラント学会の国際インプラント手帳とのある程度のデータ互換性

（※この手帳は、埋入後に記入し、埋入のトラブルの際に使用することが主眼です。）

エクセル上でデータを入力します。詳細な使用マニュアルおよびデータ入力用ファイルはホームページからダウンロードできます。ご利用頂いた皆様のご意見をもとに、改訂を継続したいと思っております。



当時のチェックリストの利用法ならびに注意事項：

- ・ インプラントカードファイル（エクセル）を開き、歯科医院基本情報を入力し、雛形を作っておく。
- ・ インプラントカードファイルに患者情報、インプラント情報を入力（上部構造装着後）
- ・ パントモ写真画像を貼り付ける（オプション）
- ・ カード印刷（名刺二つ折りタイプ）（表裏両面）
- ・ 歯式部分を手書き入力
- ・ インプラント追加の場合は、データを追加入力し、再発行（古いカードは回収）

問題点と対応策

- ・ エクセルファイルでの入力と、カード1枚への印刷に多少慣れが必要であり、取っつきにくい。そこで、手書き用のカードをあらかじめ印刷しておくためのワードのファイルを作成した。
- ・ 慣れてくれば、通常のPC入力用のカードに移行してもらうことも目指している。
- ・ 更なる普及のためには、専門医症例ではインプラントカード発行の義務化も検討する。